

新規カルシウムセンシタイザー ～心不全治療に有効です～

発明者：国立大学法人九州大学

発明分野

医薬・バイオ

背景

拡張型心筋症の特徴は、心室の壁に大きな負荷がかかり(心筋収縮不全)、左室駆出率と心拍出量の低下をきたして、鬱血性心不全を起こしやすい状況である。わが国でも17,000人の患者が推定され、年間2,000人が死亡する難病である。

対処療法としては、カルシウムセンシタイザーであるピモベンダンが用いられているが、安全性が十分ではない。

発明の概要

本発明は、従来より **関西TLO** として用いられている物質が、カルシウムセンシタイザーとしての、新規用途、並びに心疾患、特に拡張型心筋症に効果的に効くことを発見した。また本物質は抗酸化作用を有する新しいタイプのカルシウムセンシタイザーであり、さらに経口投与が可能であることから酸化ストレスを伴う鬱血性心不全の治療に対して、従来薬より有益であると思われる。

また本特性を生かし、外科手術ではなく薬物治療の可能性が考えられる。 さらに外科手術に耐えられない小児への応用も期待できる。

用途

心疾患、特に拡張型心筋症、またそれらの予防への応用が期待される。



図：拡張型心筋症(DCM)モデルマウスを用いた、心拡大抑制効果のモデル比、量依存的に減少している事がわかる。



関西TLO

Technology Licensing Organization

連絡先

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る
東塩小路町939番地 キャンパスプラザ京都6F
TEL (075)353-5890 / FAX (075)353-5891
E-mail : tlo@kansai-tlo.co.jp